

カーボン・オフセットフォーラム

(Japan Carbon Offset Forum, J-COF)

低炭素型ビジネス、低炭素生活に向けて
～カーボン・オフセット、始めてみませんか～



1. 低炭素型ビジネス時代の到来

◆次の世界、次の日本の主流となる低炭素型ビジネス

2007年に発表されたIPCC第4次評価報告書では、気候変動について以下のように警告しています。

- 我々を取り巻く気候システムの温暖化は決定的に明確であり、人類の活動が直接的に関与している
- 気候変化はあらゆる場所において、発展に対する深刻な脅威である
- 地球温暖化の動きを遅らせ、さらには逆転させることは、我々の世代のみが可能な挑戦である

この報告書にあるとおり、次の世界、次の日本は、温室効果ガス（Greenhouse Gas, GHG）の排出について厳しい制約にさらされます。そして、我々の経済社会は、低炭素型のビジネスのみが生き残る、低炭素社会（Low Carbon Society）となります。

◆低炭素型ビジネスへの変革

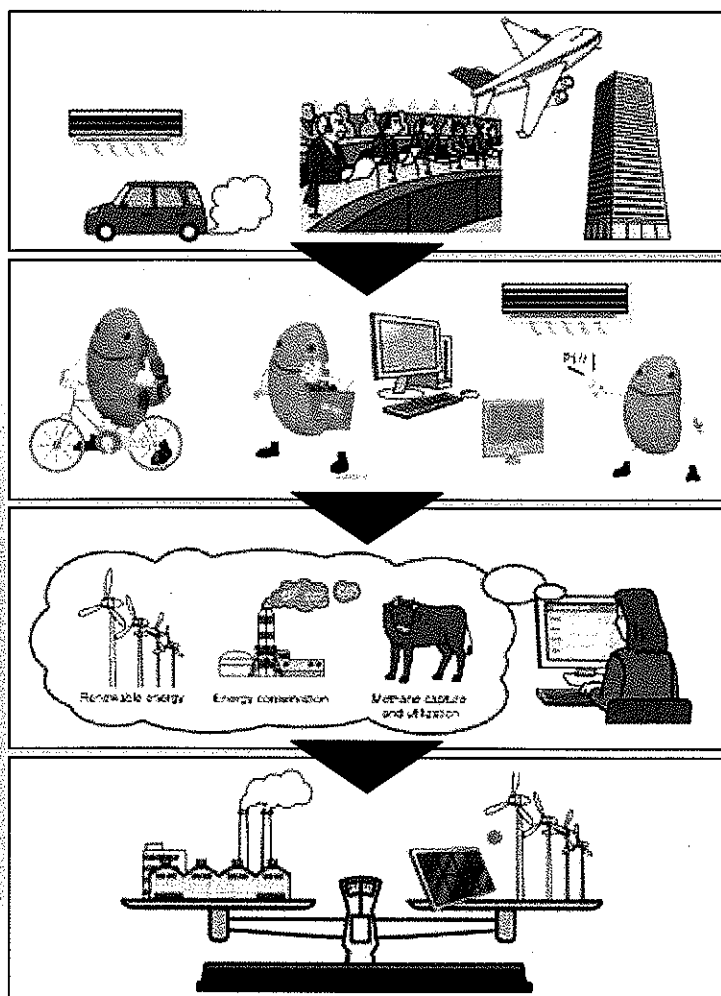
低炭素型ビジネスに生まれ変わるためには、①低炭素型商品の開発と世界規模での技術イノベーションの誘因、②ビジネスモデルの変革、③環境情報に関するディスクロージャー、そして④さまざまな環境金融商品の開発が求められます※。

カーボン・オフセットは、このような低炭素型ビジネスに向けた変革の重要な鍵となります。

※（「低炭素社会づくりに向けて」2008年4月3日中央環境審議会地球環境部会取りまとめ）

◆カーボン・オフセット関連ビジネスの勃興

カーボン・オフセットとは、市民、企業、自治体等が、自らのGHGの排出量を認識してこれを削減する努力を行うとともに、他の場所で実現した排出削減・吸収により、削減が困難な部分の排出量の全部又は一部を埋め合わせることを言います。このカーボン・オフセットを活用した商品・サービスの提供や企業の環境配慮活動は、低炭素型ビジネスの一形態として急速に拡大してきています。



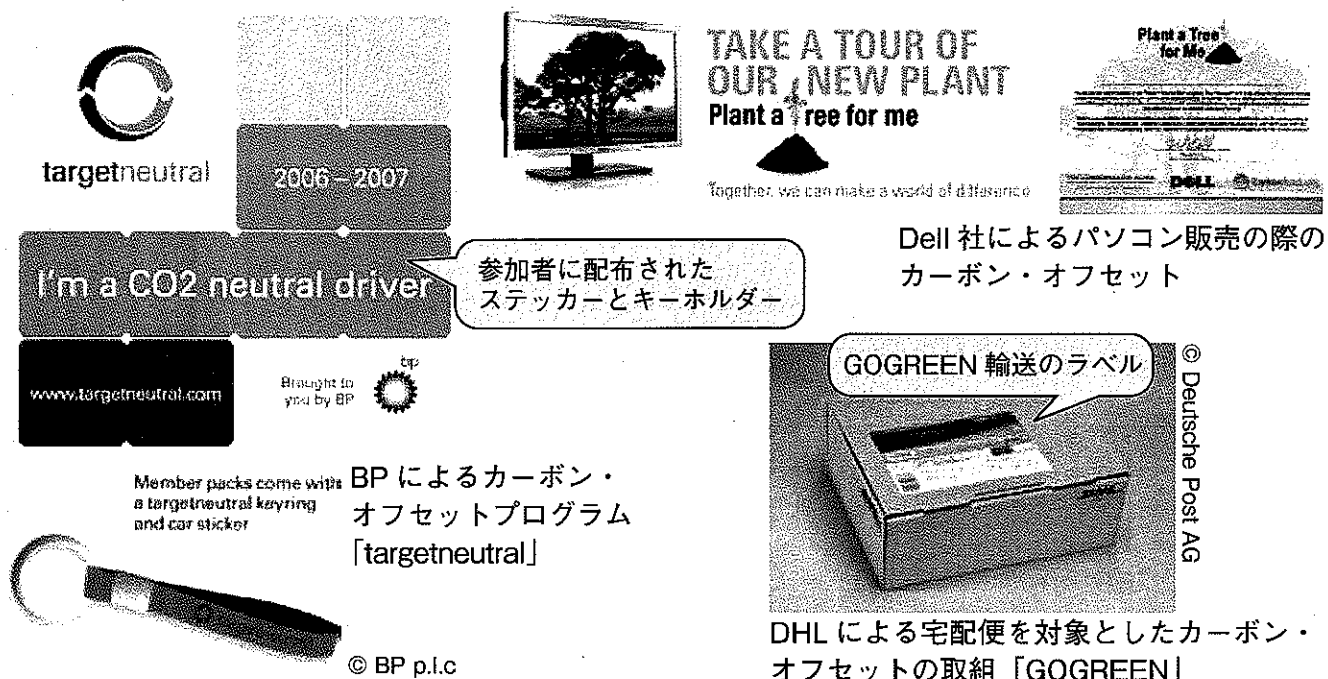
活動に伴うGHG排出量を把握する

省エネ活動等を通じて、GHG排出量の削減努力を行う

削減が困難なGHG排出量を把握し、その排出量の全部／一部を、他の場所での削減・吸収量で埋め合わせる

カーボン・オフセット商品・サービスの事例

以下の事例は海外のものですが、国内でもビジネス活動により排出される GHG 量（例えば社屋ビルでの電力消費分）をオフセットしています。また、オフセット商品・サービス（旅行ツアー等）も販売され始め、カーボン・オフセット活動が拡大してきています。



2. カーボン・オフセットフォーラム（J-COF）が提供する、低炭素型ビジネス支援

【活動内容】

- ① 低炭素社会におけるカーボン・オフセットの考え方の普及
- ② 世界・日本におけるカーボン・オフセットに関する事例・情報提供
- ③ カーボン・オフセットに関する相談支援サービスの提供
- ④ カーボン・オフセットに関する課題別ワークショップの開催

- ① 低炭素社会におけるカーボン・オフセットの考え方の普及
 - ・定期セミナーの開催
 - ・ウェブサイトや各種イベントを通じ、低炭素社会におけるカーボン・オフセットの重要性を啓発
- ② 世界・日本におけるカーボン・オフセットに関する事例・情報提供
 - ・世界のカーボン・オフセットの取組は？
 - ・カーボン・オフセットに関する市場規模は？
 - ・世界各国のカーボン・オフセットに関する政策は？
- ③ カーボン・オフセットを活用した低炭素型ビジネス展開に必要なインフラの提供
 - ・効果的な排出削減手法の紹介
 - ・オフセットの対象となる排出のバウンダリ（境界）の設定方法・排出量の算定方法の提供
 - ・オフセットに用いられる京都クレジット*等に関する会計・税務上の処理方法の紹介
 - ・カーボン・オフセットに関するガイダンスやFAQの提供

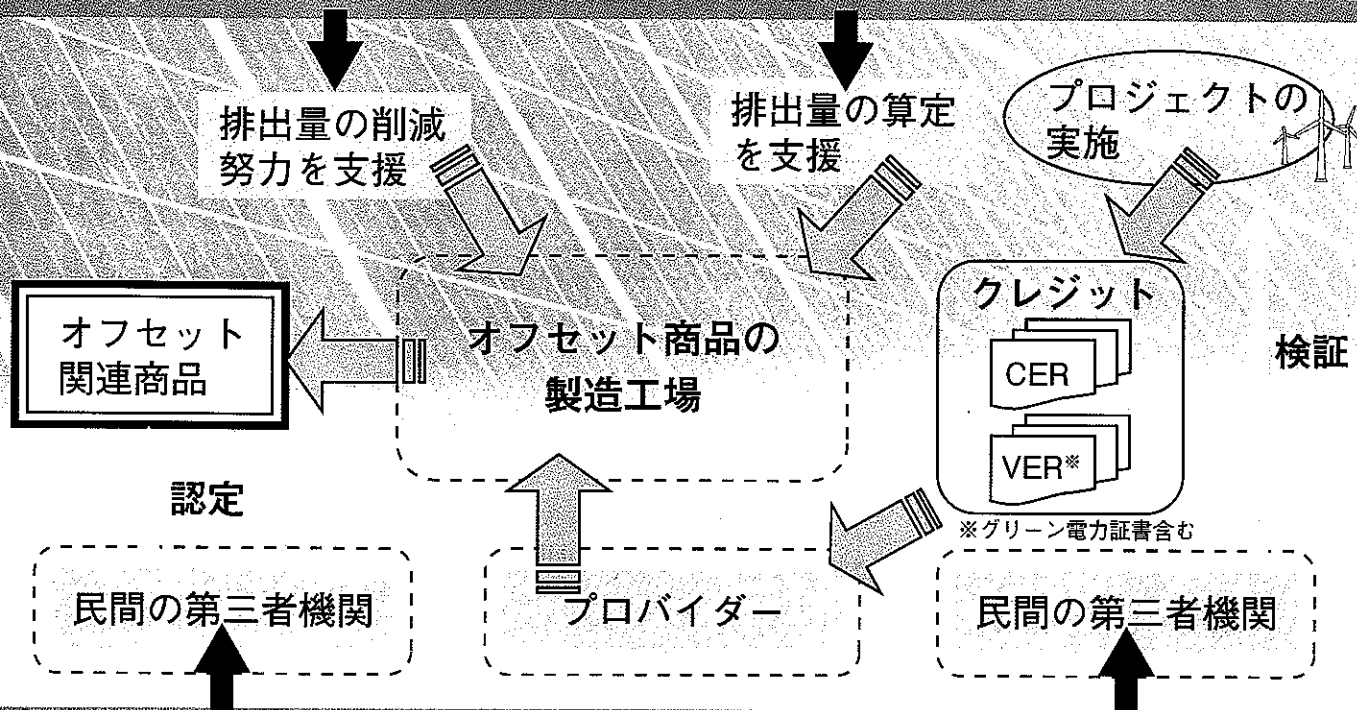
*京都議定書に定められる手続に基づいて発行されるクレジットで、AAU、ERU、CER、RMUがある

④ カーボン・オフセットに関する課題別ワークショップの開催

- ・J-COFは公開ワークショップ（WS）を開催し、アドバイザーの助言をいただきながら、カーボン・オフセットに関する技術的課題を皆様と一緒に検討していきます。

【WSでの検討テーマ】国内外の事例検証を通じ、カーボン・オフセットを活用した低炭素型ビジネスの展開に関する基礎的なノウハウを紹介

例：効果的な排出削減手法、オフセットの対象となる排出のハウンドリ（境界）の設定方法・排出量の算定方法の提供、商品・サービスの説明方法、京都クレジットの処理方法等



【WSでの検討テーマ】カーボン・オフセットを活用した低炭素型ビジネスに関する透明性の確保、ラベリング及び第三者検証スキームの構築



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

J-COFの運営には、以下の有識者から助言をいただきます

チーフアドバイザー

末吉 竹二郎 国連環境計画・金融イニシアティブ 特別顧問

アドバイザー

明日香 壽川 東北大学東北アジア研究センター 教授
板橋 一太 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員長
一方井 誠治 京都大学経済研究所附属先端政策分析研究センター 教授
宇高 史昭 京都市総合企画局地球温暖化対策室 計画推進担当課長
大和田 順子 LOHAS Business Alliance 共同代表
岸上 みち枝 イクレイ日本 事務局長
小関 康雄 産業環境管理協会 製品環境情報事業センター 副所長兼エコリーフ事業室長
五 藤 宏 日本音楽事業者協会専務理事
蘭田 綾子 株式会社クレーン 代表取締役
竹内 恒夫 名古屋大学大学院環境学研究科 教授
仲尾 強 ビューローベリタスジャパン株式会社 地球環境グループ部長
新美 育文 明治大学法学部 教授
信時 正人 横浜市都市経営局都市経営戦略室 都市経営戦略担当理事
原 亮弘 おひさま進歩エネルギー株式会社 代表取締役社長
本 郷 尚 国際協力銀行環境ビジネス支援室 環境ビジネス支援室長
武川 丈士 森・濱田松本法律事務所 弁護士
山中 聡 音楽文化振興委員会 副理事長

飯田 哲也 環境エネルギー政策研究所 所長
市丸 新平 交通エコロジー・モビリティ財団 交通環境対策部 審議役
今井 伸治 日本有機資源協会 専務理事
枝廣 淳子 環境ジャーナリスト
岡部 明子 千葉大学大学院工学研究科 准教授
麴谷 和也 グリーン購入ネットワーク 事務局長
小林 紀之 日本大学大学院法務研究科 教授
善養寺 幸子 オーガニックテーブル株式会社 代表取締役
高木 宏明 日本環境協会 全国地球温暖化防止活動推進センター 事務局長
寺島 実郎 三井物産戦略研究所 所長
中島 悠 アースデイ東京実行委員会 事務局長
西岡 秀三 国立環境研究所 特別客員研究員
浜中 裕徳 慶應義塾大学環境情報学部 教授
日比 保史 コンサベーション・インターナショナル ジャパン 代表
三橋 規宏 千葉商科大学政策情報学部 教授
村井 秀樹 日本大学商学部 教授

(敬称略 五十音順) 6月16日現在

カーボン・オフセットフォーラム事務局／海外環境協力センター (OECC)

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-8 芝公園アネックス7階

電話：03-5776-0402 FAX：03-5472-0145

E-mail：info@j-cof.org URL：http://www.j-cof.org/

カーボン・オフセットフォーラム
J-cof.org



環境省